

いずみ

令和5年度 2・3月合併号
図書委員会 2年9組



寒い毎日が続いていますが、寒い朝でも、落ち着いた気持ちで朝読ができていますか。わずか10分ですが、1日の始まりの大切な時間です。日々の朝読を疎かにせず、様々なジャンルの本に挑戦してみましょう。今読んでいる本が終わった人は、是非図書館に本を借りに来てください。



《第35回読書感想画中央コンクール愛媛県審査》

第35回読書感想画中央コンクール(毎日新聞など主催)の愛媛県審査があり、本校の生徒5名が見事入賞しました。

優秀賞

2年 福田 妃菜
題名 『そこで得たもの』
書名 『賢者の書』



優良賞



2年 松下菜花



2年 宇治郷もも



1年 佐伯みどり



1年 橋本天海

※入賞作品を図書館に展示しています。是非見に来てください！



～皆さんへお知らせ～

春休みは一人5冊まで借りることができます。

この機会に是非図書館に足を運んでみてください！



【年 間 多 読 賞 発 表】

1位	103	山崎ひかる	51冊
2位	106	森川 晴仁	41冊
3位	101	藤内 陽莉	40冊
4位	201	中井 聡一	38冊
4位	203	高石 大翔	38冊
6位	203	只安 昊生	37冊
6位	108	末光 大和	37冊
8位	102	山本 結心	34冊
9位	205	安野慎二郎	24冊
9位	105	十亀優里奈	24冊



1位 103 山崎ひかるさん 51冊

私は読書をするのが大好きで、読書をしていると、他のことを全く考えずにただひたすら文字を夢中で追いかけています。そんな時間が私の心をリラックスさせてくれます。

私のお薦めの本は2冊あります。1冊目は『武士道シックスティーン』(安藤慈朗:著)です。二人の性格の違う少女が悩みながら成長していく様子がとても魅力的です。2冊目は『成瀬は信じた道を行く』(宮島未奈:著)です。主人公の成瀬が自分の正しいと思う道をひたすら信じて進んでいく姿がカッコよくて、元気をもらえます。先日出版された第2弾「成瀬は信じた道を行く」も面白いです。本を通じてよりいっそう心を豊かにする生活を送ることが出来ると思います。北高の図書館には多くの新刊書や名作と言われる文学作品があります。また、季節ごとに飾り付けが変わったり、特集が組まれたりしていて、居心地がいい場所です。ぜひ足を運んでみてください。

2位 106 森川晴仁さん 41冊

図書館のおすすめしたい本

1.『少女たちは夜歩く』

宇佐美まことさんという松山市出身の方が書いた本で、松山城の周辺で起こる怪奇を様々な人の視点から書いています。なかなか重い内容ですが、読み進むにつれて伏線がどんどん回収されていき、読み応えがあります。

2. 田丸雅智さんの本

この方も松山出身の方で、主にショートショートという短編が幾つかまとめられた本を書いています。三津浜で育ったので、三津浜の海や花火大会が舞台の作品もあります。特におすすめなのは、『千一夜』という本の「さくら隠し」という話で、祭りと桜という非日常的な雰囲気がとても魅力的です。

3.『ヨモツイクサ』

知念実希人さんという方が書いた本で、北海道のヨモツイクサという妖怪の伝承が残る森の話です。ホラーだけでなくアクションシーンもあり、どちらもおすすめです。



《図書委員お薦めの本 part10》

書名	作者名	お薦めの理由	図書委員	
陰の実力者になりたくて！	逢沢大介	ただただ厨二心をくすぐる内容である。読んでいてこっちが恥ずかしくなるようなものではあるが、キャラの個性は立っていて複雑な設定も矛盾はなく、非常に引き込まれる世界観の作品である。好き嫌いが分かれると思うが食わず嫌いはやめて、是非とも読んでほしい。	107	石倉望
カラフル	森絵都	文章量も少なく、比較的読みやすい作品となっています。この本は、不倫した母親、自分勝手な父親をもつ息子、真の体にホームステイする話です。悩み事がある方、新しい世界にふみいれたい方にお薦めの1冊です。	107	高橋ひび希
君の臍臓をたべたい	住野よる	主人公が臍臓の病気にかかって余命がもう少ししかない桜良と残りの人生を過ごす話。桜良と過ごしていくにつれて主人公の考え方が変わってきたり、名前も場面によって変わったりしてとても感動した。	108	亀岡仁
薬屋のひとりごと	日向夏	花街で薬屋をやっている主人公の猫猫はある日人攫いにあい後宮の女官として働く羽目になった。後宮で働くうちにある事件に遭遇し解決したことから宦官壬氏に目を付けられた。それからというものの厄介な事件を押し付けられるようになり…ミステリー好きには一度読んでほしい一冊です！	108	徳永咲季
秘密	東野圭吾	平介は事故で亡くなった妻の直子が宿っている藻奈美と生活をしていくが、夫婦の関係から親子の関係になっていきます。そのため、関係はギクシャクしますが感動の別れをする話です。家族関係が繊細に書かれていて家族の大切さを考えさせられます。	109	酒井央季
君の臍臓をたべたい	住野よる	この本では、「名前のない僕」と「日常のない彼女」の物語が描かれています。主人公の僕と余命幾ばくも無い彼女の会話は面白く最後はどうなるのだろうと思いつつ楽しく読むことができます。ですが、予想外の最後に驚き感動しました。面白く楽しく切ないこの本は続きを早く読みたいと思うような本です。是非、読んで見て下さい。	109	尾上小花